

外国人留学生の日本語能力を測定するための基準について

外国人の日本語能力の判定基準としては、文化庁の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案の日本語能力評価や、独立行政法人国際交流基金の「JF日本語教育スタンダード」、豊田市が作成した「とよた日本語能力判定」のほか、民間団体が実施する日本語能力試験や日本留学試験、BJTビジネス日本語能力テストなどがある。

現在、国として外国人の日本語教育の標準を策定していないが、文化審議会国語分科会では、平成25年に整理した「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について（報告）」に基づき、平成31年度から「日本語教育の標準及び日本語能力の判定基準について」審議を行う計画であり、平成30年度に国内の日本語のテスト及び海外の言語テストについて調査を実施したところである。総合的対応策にも日本語教育の充実の項目に「日本語教育の標準等の作成（日本版CEFR）」が挙げられている。

よって、審議会による検討結果がまとまるまでの当面の間については、国内に判断基準となる指標がないことから、CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）を代用することとしたい。

CEFR（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠）は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、一貫性のある、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表した。現在では38言語の指標に用いられている学習者の言語熟達度を表す客観的基準であり、それぞれの学習段階で学習進度が測れるように考えられており、ヨーロッパにおける言語教育の基盤となっている。

このCEFRは、日本において、平成24年からNHKの語学番組のレベル表記にも使用されており、文部科学省では大学入試センター試験に代わる新たなテストとして平成32年度から実施する共通テストに参加する試験・検定試験の指標として活用されている。

ただし、当面の間、日本語能力の指標としてCEFRを用いる場合、留意すべき点もある。日本語の習得には、平仮名・片仮名・漢字の3つの文字学習が必要となり、それが読む力・書く力に大きく影響する。CEFRはヨーロッパの言語を対象としているため、読字能力や正書法の能力などについては、日本語のレベル判定について配慮する必要がある。